

2-2. 普天間飛行場の跡地を考える若手の会、地権者への取組み

取組み方針①：地権者に対し、中間取りまとめ以降の検討内容に関する情報提供と知識の習得、跡地利用計画に対する興味・関心を促す。

取組み方針②：将来的な若手の会の自立化に向け、若手の会の将来あるべき姿についての意識づけと議論を促す。

取組み方針③：地主会と若手の会の連携強化を図る。

(1) 若手の会の定例会活動支援

1) 取組み概要

若手の会の今年度テーマである「普天間飛行場跡地利用計画策定にかかる計画分野別検討内容」の検討を進めていくにあたり、「全体計画の中間取りまとめ」以降の跡地利用計画検討状況と課題について定例会で情報提供を行い、計画分野別検討内容の内「環境づくりの方針」について、地権者及びまちづくりの視点を踏まえ取りまとめた。

その後「土地利用及び機能導入の方針」について検討を始め、次年度以降も継続して検討を行う事とした。

また、若手の会の将来あるべき姿について、若手の会メンバーへの意識づけを行うと共に、現時点の課題及び今後必要な取組みに関する議論を促した。

2) 取組みスケジュール

①定例会

No	開催日	議題
1※	4 月 9 日	・フレキシブルな会議の運営・進め方について
2※	5 月 14 日	・フレキシブルな会議の運営・進め方について
3	6 月 11 日	・今年度の取組みと進め方について ・フレキシブルな会議の運営・開催について
4	7 月 9 日	・跡地計画策定に向けた取組の流れと現在の段階 ・「計画づくりの方針」の具体化に関する計画分野別の検討状況・課題
5	8 月 6 日	・「環境づくりの方針」の具体化に関する検討状況と課題 ・字別意見交換会の開催に向けて

※本業務対象外

No	開催日	議題
6	9 月 10 日	・ 字別意見交換会の開催準備 ・ 「環境づくりの方針」に関する意見交換 ・ 先進地視察に向けて
7	10 月 8 日	・ 地主会役員会等との意見交換会及び字別意見交換会に向けた準備 ・ 先進地視察会について ・ 「環境づくりの方針」に関する意見交換
8	11 月 12 日	・ 先進地視察会について ・ 字別意見交換会に向けた準備 ・ 「環境づくりの方針」に関する意見交換
9	12 月 10 日	・ 先進地視察会を振り返って ・ 字別意見交換会を振り返って ・ 「環境づくりの方針」に関する意見交換
10	1 月 14 日	・ 「環境づくりの方針」取りまとめ ・ 次検討テーマについて ・ 若手の会の将来あるべき姿について
11	2 月 4 日	・ 「環境づくりの方針」取りまとめ ・ 「土地利用及び機能導入の方針」について ・ 若手の会の将来あるべき姿について
12	3 月 10 日	・ 学術研究拠点のイメージ ・ 今年度を振り返って（課題と今後の取組み）

②自主会等

No	開催日	場 所	議題
1※	3 月 3 日	アイム・ユニバース てだこホール 市民交流室	・ 「那覇軍港のまちづくりを考える次世代の会」、「チームまきほ 21」との合同意見交換会

※本業務対象外



写真：定例会の様子①



写真：定例会の様子②



写真：定例会の様子③

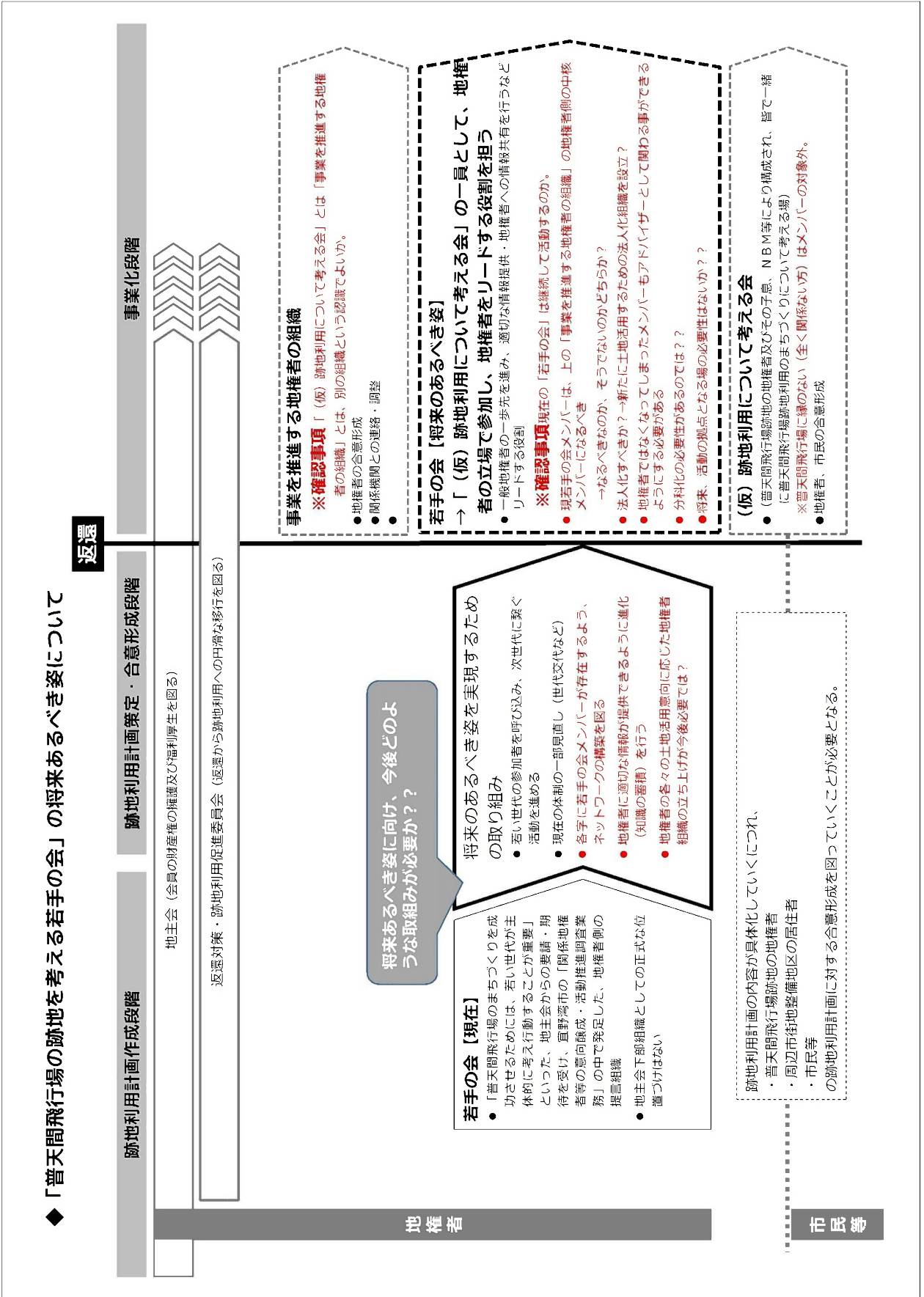


写真：定例会の様子④



写真：那覇軍港のまちづくりを考える次世代の会、チームまきほ 21 との意見交換会の様子

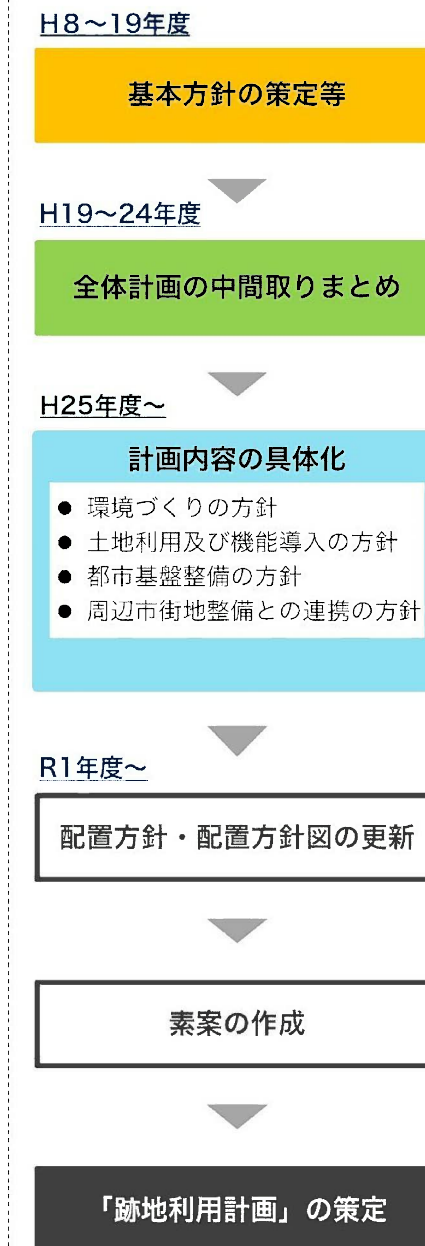




「普天間飛行場の跡地を考える若手の会」の考える【環境づくりの方針】まとめ（令和元年度版）

普天間飛行場跡地利用計画の策定に向けて検討が進められている中、跡地利用に対して多くの地権者が意見を発信していけるよう、若手の会の意見を呼び水に地権者の意見を引き出すことを期待し、「若手の会の考え」を整理した。

跡地利用計画策定に向けた取組みの流れ

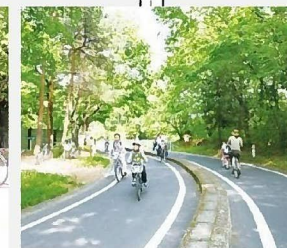
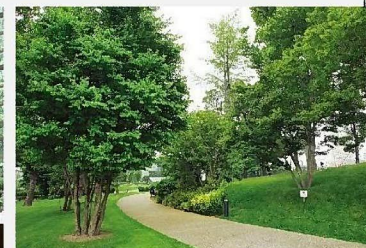


地権者の意見を引き出す呼び水となる

地権者の意見
発信

計画内容の具体化との関連性

「環境づくりの方針」に関する若手の会の考え			
緑の中のまちづくり（考え方）	みどりの空間イメージ	大規模公園の考え方	地域特性
緑の中のまち ➢ みどりが<u>まち全体を包み込み</u>、学校や図書館等、様々な公共施設や文化施設等が緑（杜）の中にあり、<u>日常的に緑豊かな環境</u>で生活でき、そこで暮らす人々の生活やコミュニティを繋ぐまち。 ➢ 各ゾーン（都市、振興）において、<u>敷地の一定割合を緑化</u>し、ネットワーク型の緑と一体化を図る。 ➢ 大きな広場や緑地・公園が配置され<u>ゆとりある空間</u>が形成され、<u>人と自然が触れあう</u>ようなまち。 ネットワーク型の緑 ➢ 現存するみどりを活かしながら、公園、並松街道、各種ゾーン（住宅、都市、振興）など様々な場所を<u>幅広の緑地帯でつなぐ</u>。 ➢ 大規模公園と市街地を結ぶ緑地帯は、<u>木陰の中を徒歩で移動</u>することを念頭に、遊歩道やサイクリングロードを整備する。 周辺市街地との関係 ➢ 普天間飛行場跡地のまちづくりの中で考え方を作り上げ、それが周辺市街地にも波及していくことを期待する。 住民意識 ➢ 緑の質を高め、その維持に向けて、<u>住民の意識を高める</u>。	住宅地のみどり ➢ <u>オープンガーデン</u>や<u>生垣</u>を配置する。（ゴミゴミ感がなくなる） ➢ <u>ゆとりと緑のある</u>住宅地とする。（広々とした敷地に果樹園や景観緑地の配置、緑住街区や緑住農街区※などの設定等） ※景観緑地と宅地、菜園の3つから構成（緑住街区は景観緑地と宅地で構成）され、すべての画地に広々とした緑地が備わっている街区 ➢ <u>傾斜を活かした宅地開発</u>とする。 大勢の人が集まる場所のみどり ➢ 小さな緑地帯の中に大きな樹木を植え、ベンチなどが<u>木陰になり人々が交流できる空間</u>とする。 公園のみどり ➢ 高木・中木・低木がそれぞれ大きく育ち、<u>小さな森を再現</u>する。公園内の樹々については、成木になる80～100年後を想定して配置がなされている。 道路のみどり ➢ 主な幹線道路について、<u>従来の植栽スペースより広くし、樹々を育てる発想</u>で植栽する。樹種は、いすの木通りやフクギ通りなどの統一感を演出するようにする。	テーマ ➢ メインテーマを「<u>平和</u>」とし、まちと連動した公園づくりを目指す。 規模 ➢ ネットワーク型の公園として整備する場合、<u>中核部分が小さくなると大規模公園の魅力や価値も減少する可能性</u>があるため、中核は90ha程度確保し、飛行場内の緑や周辺の緑地帯を有効活用して100ha以上を確保する。 施設・設備 ➢ 大規模公園内に人工的な貯水池を整備し、そのそばに浄水施設や飲料水工場も建設し、水と緑にあふれるようにする。人工池には水上ステージやボート等を配置し、観光資源として活用する。 ➢ 大規模公園の整備にあたり、重要な遺跡は1箇所にまとめた方が動線的にも良いと考える。	地下空洞 ➢ 文化財などの歴史、文化資源や斜面緑地とともに、<u>上部を緑地とすることにより保全</u>を図る。 湧水 ➢ 普天間飛行場跡地が開発された際、湧水が枯渇しないよう、<u>雨水を浸透させる工夫</u>を施す。 ➢ 緑をまち全体に広げる仕掛けとして、公園や緑地など公共空間を活用し、湧水を<u>せせらぎとして街中に引き込む</u>。 「宜野湾」の歴史 ➢ <u>旧道をそのまま残し遊歩道として活用</u>するなど、公園の一部やまちなかに溶け込むように活用する。 ➢ 基地がかつて存在していたことを後世に伝えていくため、現在の<u>基地内周回道路をサイクリングロードとして残す</u>。 ➢ <u>並松街道を復元</u>し大規模公園を南北に貫き、公園内には巨木の松が育つスペースを設ける。大木のリュウキュウマツが育つ植栽空間を整備し、その中にジョギング、サイクリングロードを整備する。 安全への配慮 ➢ 返還前の段階から、基地内の汚染実態を把握、対策、除去など地主として今主張すべき。
● 沖縄振興の舞台となる「緑の中のまちづくり」 ● 広域的な水と緑のネットワーク構造の形成 ● まとまりある樹林地の保全・整備		● 「宜野湾」の歴史が見えるまちづくり ● 環境の豊かさが持続するまちづくり	● 地域特有の水循環の保全・活用 ● 地下空洞への対応と保全・活用



3) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●若手の会を考える「環境づくりの方針」について

- ・「全体計画の中間取りまとめ」との関連性を考慮しながら、地域特性を活かした緑の中のまちづくりに関する考え方、みどりの空間のイメージ、大規模公園の考え方等、「環境づくりの方針」に関する若手の会の考えを取りまとめる事ができた。

●若手の会の将来あるべき姿について

- ・普天間飛行場返還後、事業化段階における若手の会のあるべき姿について会員間で議論する事により意識づけを行うと共に、現時点における若手の会の課題及び今後必要な取組みについて議論を進める事ができた。

【今後の課題】

●検討内容の関係機関への発信

- ・若手の会を考える「環境づくりの方針」について取りまとめを行ったが、取りまとめの結果について「普天間飛行場跡地利用計画策定調査」における有識者検討会議の場で提言を行う等、関係機関への発信を行っていくことが必要となる。

●若手の会の将来あるべき姿の検討

- ・定例会の中で少しずつ議論を進めているが、将来的な若手の会の自立化に向けて会員自身の意識づけを更に深めるため、今後も継続して検討する必要がある。

●次世代に繋いでいくための取組み

- ・会が発足して15年以上が経過している事から、現会員のこれまでの活動を次世代に繋ぎ、更なる発展を目指していくためにも、新会員への知識の継承方法等具体的な取組みについて、若手の会として検討を進めていく必要がある。

●地主会との連携強化

- ・将来的に地権者の意向を取りまとめていくにあたり、地主会との連携をより強化し、跡地利用計画に対する共通認識を持った上で意向醸成活動を進めていく必要がある。

(2) 字別意見交換会の企画・開催

1) 開催概要

地権者に対して、下記内容の理解と周知を図り、意見聴取を行うことを目的として計 3 回開催した。

- ①普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた取組みについて
- ②普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた「計画内容の具体化」に関する取組について

2) -1 地主会役員等との意見交換会の開催概要

地主会役員としての意向を踏まえた上での字別意見交換会とするため、字別意見交換会の開催に先立って、地主会役員等を対象とした意見交換会を開催した。

○開催日：令和元年 10 月 16 日（水）19：00～20：30

○会 場：宜野湾市役所多目的会議室 A

○内 容：①普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた取組について

プロモーションビデオの放映

②普天間飛行場の跡地利用策定に向けた「計画内容の具体化」に関する取組について

③小グループに分かれての意見交換

○参加者：20 名（地主会役員等 9 名、若手の会 7 名、地主会事務局 4 名）



写真：意見交換会の様子①



写真：意見交換会の様子②

2) -2 主な意見（地主会役員等との意見交換会）

まちづくりの考え方に関する意見

【A テーブル】

- ・相続により、地権者一人当たりの所有する土地はどんどん小さくなる。子ども達の将来を考えていくべきであり、そのために住みよいまちを作り上げ後世に残していく事が大事である。
- ・いかにして、まちに付加価値をつけるか。まち全体の付加価値を上げないと人が訪れない。同じような施設を作るだけならパイの奪い合いになる。

【B テーブル】

- ・成功事例の研究が必要である。（雇用促進、業種、土地の価値の向上）
- ・企業撤退後も地主が安定できるように、10年、20年後の時代の変化に対応可能な仕掛けも重要である。
- ・企業が進出したいと思うようなまちづくり（シンガポールのような）が必要であり、それが何か考える必要がある。
- ・まちづくりに関する人材育成が必要である。
- ・生活圏に癒し、利便性等がそろっている事が必要である。
- ・宜野湾市だけでなく、周辺市町村も活性化できるようなまちづくりを行って頂きたい。

跡地利用計画自体に関する意見

【A テーブル】

- ・跡地利用計画について、内容が漠然としておりかつ面積が広大なため、普通の土地区画整理事業とは異なるという事は理解できるが具体的なイメージがわからない。計画内容を理解しづらい。
- ・跡地利用計画の核となる施設が何なのか、それをまず跡地利用計画で確定させないと地権者として土地活用のイメージができない。

【B テーブル】

- ・緑の配置について、例えば象徴的な並松街道を中心とし、まち全体に緑のネットワークを築く等検討が必要である。
- ・文化施設、スポーツ施設は機能的に集約する。
- ・湧水の利活用について、貯水池（タンク）の維持管理が必要である。

環境に関する意見

【B テーブル】

- ・屋上緑化が望ましい。（温暖化、CO₂、断熱等効果が高い。しかし台風の影響が懸念される。）
- ・樹々の成長に合わせてみどりの配置を考え、樹木の成長を考慮した用地確保が必要。
- ・環境づくりに関して、例えば景観等は県や市の条例制定の方が急務ではないのか。

- ・（仮）普天間公園は 100ha と計画されているが、基地内の既存緑地及び周辺の緑地も考慮し、150ha でもよいのではないか、と考えている。
- ・（仮）普天間公園について、100ha もの土地が確保できるのか疑問である。

振興拠点に関する意見

【B テーブル】

- ・語学や技能の習得が可能な施設が必要である。（例えば語学の習得については、英語しか使用できないエリアを設定する等）
- ・若い世代が働ける場所が必要である。

企業誘致に関する意見

【A テーブル】

- ・企業が永続的に土地を借りる事はない。

交通に関する意見

【A テーブル】

- ・沖縄都市モノレールを宜野湾市まで延長すればよい。

【B テーブル】

- ・沖縄都市モノレールを活用し、連結した交通体系を検討頂きたい。
- ・市内を一周する公共交通の配置や、沖縄都市モノレールとの結節等検討頂きたい。
- ・将来の 100 万都市を想定した都市交通システムを検討頂きたい。

基盤整備に関する意見

【B テーブル】

- ・道路について雨水が浸透する舗装になればよい。（低速部、歩道部）
- ・水害対策の強化が必要である。例えば遊水地や調整池等、平時は多目的広場として活用する。
- ・都市の発展には交通の優位性が大事であるため、大量輸送可能な交通システム、幹線道路の効果的な連結をしっかりとさせる必要がある。

周辺市街地に関する意見

【B テーブル】

- ・普天間飛行場と周辺市街地の境界部分は、開発計画があるのか。
- ・市として周辺市街地の開発や再編等、プランがあるのか。

鉄軌道計画に関する意見

【A テーブル】

- ・宜野湾市に立ち寄ってもらえるよう、鉄軌道は普天間が始発となればよい。（通過駅にならないようにしたい）

合意形成に向けた地権者の役割に関する意見

【B テーブル】

- ・自身の土地活用の考えを示す事が必要である。
- ・意見を発信し、人の意見を聞き、共有する事が必要である。

その他

【A テーブル】

- ・那覇市と宜野湾市を比較すると、那覇市には余剰地が少ない。対して宜野湾市は普天間飛行場が市の中央部に存在する事から、返還後に開発可能な土地が多い。その点が那覇市よりも有利である。
- ・PV 視聴中に、重要なポイントで一時停止させて質問すれば意見が出やすいのではないか。
- ・宜野湾市の各種計画の枕詞として、物事を中心になる事を踏まえ、「ねたて」を前面に押し出していけばよい。

当日の各テーブルまとめ



写真：Aテーブルまとめ



写真：Bテーブルまとめ

3) 字別意見交換会の開催概要

- 開催日：令和元年 11 月 25 日（月）、29 日（金）、30 日（土）
- 内 容：（１）普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた取組について
プロモーションビデオの放映
- （２）普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた「計画内容の具体化」に関する取組について
- （３）小グループに分かれての意見交換

表：「字別意見交換会」の開催日時、会場、参加者数

回数	開催日時	会場	参加者数
第 1 回	11 月 25 日（月） 19：00～20：30	宜野湾市立中央公民館 2 階展示室	23 名 (6 名)
第 2 回	11 月 29 日（金） 19：00～21：00	大山区公民館	13 名 (5 名)
第 3 回	11 月 30 日（土） 15：00～17：00	宜野湾市役所多目的会議室	28 名 (5 名)
合計			64 名 (16 名)

※（参加者数について）上段：参加者総数

下段：参加者総数の内、若手の会からの参加者



写真：字別意見交換会の様子①



写真：字別意見交換会の様子②

3) -1 主な意見と回答（字別意見交換会）

跡地利用計画に関する意見

- ・ 反対意見が出た場合、どう対応するのか。
→少なからず反対意見は出るものと考えている。納得頂けるように丁寧な説明を行い、対応する事になる。
- ・ 自身の土地はまちづくりのために役立てて頂きたい。
- ・ まだ計画段階である現時点においては、地区計画等を定める事で良好な環境を整備しやすい。

- ・ 放映されたプロモーションビデオは理想であり、現実とかけ離れている。プロモーションビデオのようなまちになれば良いと考える。
- ・ 自身が申告した普天間飛行場内の所有面積と実態の面積について、差があるのでは。
→実際の面積と登記面積が異なる土地が一部存在する。※未承認地域
- ・ 文化財は可能な限り保全して頂きたい。
- ・ 並松街道の再現は、時代にマッチしたものにして頂きたい。
- ・ 地権者の意向を第一に考えて、跡地利用計画の検討を進めて頂きたい。
- ・ 普天間飛行場の返還時期はいつか。返還されないと、自身の土地のようすが分からない。
- ・ 普天間において、何を整備すれば良いまち、収益のあるまちになるのか。例えばITセンターや、アジアでもトップクラスの医療施設を整備する等。また、どのようなプロセスで跡地利用計画の実現を図る事になるのか。
→計画については地権者、市民から様々な意見を伺い、最終的に検討委員会に諮る事になる。返還時期が不明確な中で跡地利用計画の検討を進めているため、具体的な話はまだ先にならざるを得ない。
- ・ 国際的に認知されるまちをつくって頂きたい。

地下水に関する意見

- ・ 普天間飛行場跡地の開発に伴い、大山区の地下水の流れが懸念される。
- ・ 地下水について、どの程度調査がなされているのか。
- ・ 地下水の利用という話を聞くが、公園、緑地、道路における雨水排水がうまく機能しないと、枯渇する恐れがある。
- ・ 貯水池を整備し、そこから取水を行って公共施設の植栽、公園、街路樹への散水に利用すれば良い。イニシャルコストはかかるが、緑の中のまちをつくるためには必要である。

緑の中のまちづくりに関する意見

- ・ 眺望が良いと思うが、緑で囲むと海が見えなくなるのではないか。
- ・ 緑地を多くとる事は良い事であるが、地権者の土地が減ってしまう事が懸念される。
- ・ 緑のネットワークとは具体的にどのようなイメージなのか。
→公園、住宅、都市拠点ゾーン等を緑で結ぶイメージである。また、ネットワークの繋ぎの部分については、従来の道路よりも広幅員で繋ぐイメージである。
- ・ 緑は、数ヶ所にまとめるよりも分散している方が良い。
- ・ 車道を横断せずに、緑の中を歩きながら行きたい場所に行く事ができる歩行者ネットワークを考えたい。
- ・ 災害時には、緑の中を移動して避難できれば良い。
- ・ 緑の広場だけの大規模な公園はあまり活用されないため、小規模な公園をより多く整備して頂きたい。

大規模公園に関する意見

- ・整備しても管理面で問題があるのではないかな。
→そのため国営公園としての位置づけを考えている。
- ・整備しても集客が見込めるのか。
- ・大規模公園は緑被率の向上にも繋がる。
- ・100haの大規模公園は他の返還跡地では実現不可能な公園であり、また、国営公園とする事により地主の負担軽減にも繋がる。
- ・大規模公園は、防災に役立つのではないかな。
- ・国の重要文化財の保管施設や研究所が国営公園にあると良い。
- ・国営図書館の建設や、国宝の展示がなされると良い。
- ・大規模公園である普天間公園はネットワーク型を想定しており、公園内外を緑のネットワークで結び公益施設等にも歩いて行く事が可能となる。

住宅地に関する意見

- ・子どもたちのために、住宅地があった方がよい。
- ・琉球瓦等統一感のある住宅地が良い。
- ・個人のライフスタイルに合わせた住宅地が必要である。
- ・経済的に豊かな人達が購買したくなるような住宅地にして頂きたい。
- ・居住ゾーンについては、できるだけ現況の地形を活かした道路・宅地配置とするのが良い。
- ・居住ゾーンは整備しなくとも良いのではないかな。

道路、交通に関する意見

- ・中部縦貫道路は国道になるのか。
→国道を想定して検討が進められている。
- ・中部縦貫道路の規模はどのようなものか。
→4車線道路を想定して検討が進められている。
- ・利便性の高い空地が所々に配置されているとよい。
- ・電柱地中化を行った方がよい。
- ・電柱地中化は、美観・メンテナンスに伴う雇用創出等メリットが多い。
- ・イチョウ並木のようなイメージで、沖縄に咲く花木の並木道があると魅力的な道路になるのではないかな。デイゴ並木があっても良い。
- ・広幅員道路を並木通りにすれば良いのではないかな。
- ・並松街道は、歩行者専用道路として歩いて楽しみたい。
- ・歩行者動線と車両動線を分断し、渋滞しない道路を整備すれば人が訪れやすいのではないかな。
- ・西海岸とケーブルカーで結び、振興拠点ゾーンに広場を設け、普天間飛行場跡地と

西海岸を観光リゾート地として結んではどうか。

- ・中部縦貫道路、鉄軌道等、跡地内の交通機能について整備するのも良いが、国道 58 号や国道 330 号の、現在の市街地とのアクセス性を良くする必要がある。

鉄軌道に関する意見

- ・地下区間やトンネル等、高低差も考える必要がある。
→跡地内のルートや構造について、引き続き検討していく。
- ・単に駅を設置するだけでは通過駅となり、人が訪れない。そうならないよう、宜野湾が起点となる施設が必要。(例：国営公園内には国際会議も想定した施設を整備する等)
- ・定時・高速の交通手段として市民、県民の利便性向上に資すると共に交通渋滞の解消にもなる。
- ・各駅を停車させ、駅ごとに特色あるまちづくりをすれば良い。
- ・モノレールは跡地まで延長されるのか。
→その計画はない。
- ・跡地内を一周する公共交通もあると良い。

産業振興に関する意見

- ・普天間飛行場跡地に、県外・国外の事業者が進出しないで頂きたい。
- ・世界中の人が訪れ働ける場所という考えも良いが、市民の働ける場所も欲しい。
- ・振興拠点ゾーンに誘致する国内外の企業や団体等は、宜野湾市や沖縄県の若者の雇用の場の創出にもなると考える。
- ・振興拠点ゾーンについて、MICE との連携・棲み分けをどう考えるのか。

地域資源に関する意見

- ・地下洞穴について、観光資源として利用するのか、あるいは危険なため封鎖するのか。
→観光資源又は遊び場として、他にない資源ではないかと考える。
- ・地下洞穴の活用については、跡地利用計画の検討を進めていく上で色々な方法があると思う。例えば泡盛古酒（コース）の貯蔵や、そのまま観光資源として活用する等。
- ・観光資源として活用し、洞穴と人々との関わりについても説明した方がよい。(戦時中の避難所として活用されていた等)
- ・「宜野湾」よりも「普天間」という地名の方が、全国的に知られている。

土地利用に関する意見

- ・ 現在、道路と学校用地の先行取得を行っており、目標取得面積に対して現在県が 60%、市が 50%の取得を達成している。
- ・ 土地を活用したい地権者については、申出換地という手法で土地を集約し、そこに商業ゾーンを設ける事も考えられる。
- ・ 墓地公園は 1 区画の大きさに差がありすぎると問題が発生する事がある。
→ある程度は区画の大きさを揃える事になると考える。
- ・ 墓地はどの位置に計画されるのか。
→未定である。形態としては、集約墓地になる可能性がある。
- ・ 何割が宅地として活用できる事になるのか、数値化が必要ではないか。
→立入り調査ができていないため、現段階での数値化は難しい。今後調査が進展すれば数値化も可能と考える。

地権者自身の事に関する意見

- ・ 自身の土地を確認する事はできるのか。
- ・ 自身の土地の位置や状況を知れば、売る・売らないを地権者自身で決定しやすい。
→地番が分かればまち未来課で GIS を使った位置確認が可能。
- ・ 市に土地を売却する事は可能か。
→可能である。(※R3 年度まで)
- ・ 地権者としては、自身の考えや意見を明確にして、後で「こんなはずではなかった」とならないよう、十分に配慮する必要がある。
- ・ 地権者の立場としては、概算の減歩率が示されないと自身の土地活用のイメージができない。

周辺市街地に関する意見

- ・ 普天間飛行場跡地に隣接している部分において、道路や上下水道等インフラが整備されていない地域等は、土地区画整理事業の区域に入れる事も考えられる。
- ・ 普天間飛行場返還後、周辺（森川公園等）はどのような恩恵を受ける事になるのか。
- ・ 普天間飛行場に隣接している森川公園を活用・整備してはどうか。

その他意見

- ・ 県内先進地との意見交換会を行っているのか。
→新都心地区やアワセ地区については、若手の会との意見交換会を実施した。
- ・ 減歩率はどの程度か。
→減歩率はまだ示せる段階ではないが、例として那覇新都心地区の平均減歩率は約 30%、西普天間住宅地区は約 38%である。
- ・ 西普天間地区の琉球大学用地は、どのように確保されたのか。
→市が先行取得を行い、確保した。

3) -2 字別意見交換会に関するアンケート結果（参加者に対して実施）

問 1. 本日の内容について

(1) プロモーションビデオの内容

選択肢	回答数 (件)	構成比 (%)
1. 理解できた	9	30.0%
2. まあまあ理解できた	15	50.0%
3. 少し難しかった	3	10.0%
4. 難しすぎた	1	3.3%
5. その他	0	0.0%
無回答	2	6.7%
計	30	100.0%

内容について「理解できた」、「まあまあ理解できた」と回答した割合がアンケート回答者の 8 割を超えていることから、これまでの跡地利用に関する県市の取組みや考え方・方針について概ね理解されていると考えられる。

(2) 「計画内容の具体化」に関する取組について

選択肢	回答数 (件)	構成比 (%)
1. 理解できた	9	30.0%
2. まあまあ理解できた	16	53.3%
3. 少し難しかった	4	13.3%
4. 難しすぎた	0	0.0%
5. その他	0	0.0%
無回答	1	3.3%
計	30	100.0%

内容について「理解できた」、「まあまあ理解できた」と回答した割合がアンケート回答者の 8 割を超えていることから、これまでの跡地利用に関する県市の取組みや考え方・方針について概ね理解されていると考えられる。

また、説明内容が「少し難しかった」の回答については、説明時間が 10 分程度と限られており早口での説明となる部分があったこと、また、内容が専門的にならざるを得なかった部分もあったことが要因として考えられる。今後も分かりやすい資料作りの工夫が必要である。

問 2. 字別意見交換会の時間について

選択肢	回答数 (件)	構成比 (%)
1. 長かった	1	3.3%
2. ふつう	24	80.0%
3. 短かった	4	13.3%
無回答	1	3.3%
計	30	100.0%

時間が「短かった」という回答が 4 件あった。今年度は全体で最長 120 分の時間を設けた意見交換会であったが、まだ話し足りないという参加者の意向が読み取れる。

問 3. 普天間飛行場跡地利用計画の中で、興味のある分野は？

選択肢	回答数 (件)	構成比 (%)
1. 緑の中のまちづくり	18	60.0%
2. 水と緑のネットワーク構造	13	43.3%
3. 地下空洞への対応と保全・活用	12	40.0%
4. 歴史が見えるまちづくり	10	33.3%
5. 基幹産業の集積地や国際ビジネス拠点など 沖縄振興に向けた拠点の形成	15	50.0%
6. 生活利便性の高い都市拠点の形成	6	20.0%
7. 居住ゾーンの形成	15	50.0%
8. 幹線道路網の整備	13	43.3%
9. 鉄軌道等の整備	12	40.0%
10. スマートシティの形成	7	23.3%
11. 周辺市街地の再編	9	30.0%
12. その他	1	3.3%
13. 興味がない	0	0.0%
計	131	—

※ 「5.基幹産業の集積地や国際ビジネス拠点など沖縄振興に向けた拠点の形成」に△1件あり

回答数の多い順に、「緑の中のまちづくり」、「沖縄振興に向けた拠点」、「居住ゾーン」、「水と緑のネットワーク構造」、「幹線道路網の整備」であった。

「居住ゾーン」や「振興拠点」等、地権者として将来の土地活用がイメージしやすく意見が述べやすい分野に興味があることが読み取れる。

「緑の中のまちづくり」、「水と緑のネットワーク構造」に対しての興味が高い理由の1つとして、プロモーションビデオの影響が考えられることから、プロモーションビデオを活用しての興味喚起は有効であることが読み取れる。

【自由意見】

- ・住居を建築しても問題ないエリアを建てても居住ゾーンとしているのか。
- ・テーブルの皆は年配の方が多いため、子や孫のための住宅が今後どうなっていくのかという懸念がある。
- ・参加者の思いが強かった。並松街道や新城ガジュマルについて、現実的な意見が出た。文化財利活用については、今後文化課も含めた計画がなされればと考える。
- ・具体的な計画図や施設の配置等が提示された上で地主の意向を汲み取るべきである。
- ・初参加であったが非常に興味深い話が多く、次回も参加したいと思った。計画の更なる具体化が必要と考える。
- ・インターネット上では得られない情報があったため、参加してよかった。
- ・地権者の思い（意見）が聞けて良かった。継続する事が必要である。
- ・今後も意見交換会を開催して頂きたい。
- ・3年後の跡地利用計画素案に期待している。意見交換会の回数が多数であれば良いのと思う。
- ・プロモーションビデオが漠然としていた。

3) -3 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●意見を引き出しやすい雰囲気づくりについて

- ・若手の会会員による「全体計画の中間取りまとめ」以降の跡地利用計画検討状況の内容説明を行い、その後の意見交換においても会員自ら進行を行った事で、参加者から意見を引き出しやすい雰囲気を作り出す事ができ、活発な意見交換となった。

●新たな参加者の取込みについて

- ・例年と異なり年度末の開催を避けた事、市役所等公共施設での開催数を多くした事により、初参加者が例年よりも比較的多い意見交換会となり、新たな参加者を取込む事ができた。

【今後の課題】

●跡地利用計画に対する興味・関心の更なる向上

- ・地権者の意向醸成を進め、普天間飛行場返還後の円滑な跡地利用を促進するため、今後も継続して字別意見交換会を開催し、より多くの地権者へ跡地利用計画に対する興味・関心を喚起し、意見等を引き出す必要がある。

●参加しやすい開催日時等の工夫

- ・これまで、平日は夜間、休日は午後からの開催で字別意見交換会を開催してきたが、新たな参加者を呼び込み、より多くの地権者に対して跡地利用計画に対する興味を喚起するためにも、例えば平日昼間の開催を行う等の工夫が必要である。

●継続した参加を促すための工夫

- ・将来的に跡地利用計画の内容について深い知識を習得した地権者を増やしていくためにも、毎年度継続して参加しようと思えるような取組みや意見交換のテーマ設定等、検討していく必要がある。

(3) 地権者支援情報誌「ふるさと」の作成・発行

1) 取組み概要

跡地利用に関する行政側の情報や若手の会の活動等に関する情報の提供を目的として、地権者支援情報誌「ふるさと」を作成し、発行した。

2) 情報発信の内容

回 数	発送時期	主な掲載内容
第 50 号	令和元年 11 月	○告知事項 ・ 普天間飛行場跡地まちづくり講座開講のお知らせ ・ 字別意見交換会開催のお知らせ ・ 若手の会参加者募集のお知らせ ○紹介事項 ・ 跡地開発事例（アワセゴルフ場地区）紹介
第 51 号	令和 2 年 3 月	○報告事項 ・ 字別意見交換会の概要報告 ・ 若手の会活動内容 ・ 普天間飛行場跡地まちづくり講座の概要報告

地権者支援情報誌「ふふふと」では、普天間飛行場跡地利用に係る最新情報をお伝えします。

 宜野湾市では、普天間飛行場の跡地利用に向けて沖縄県と共同で跡地利用計画の検討を進めているほか、地権者等の合意形成活動や土地の先行取得に取り組んでいます。今年度の合意形成活動では、「普天間飛行場の跡地を考える若手の会」への活動支援や宇別意見交換会、まちづくりの先進事例視察、講師を招へいた講座を通して学べる「まちづくり講座（全3回）」を引き続き実施します。

跡地開発事例特集 アワセゴルフ場地区

基地返還後の跡地利用と住民の関わりについて

沖縄県内で既に返還された米軍基地について、跡地開発はどのように行われたのでしょうか？ また、跡地開発を受ける基地周辺の住民は跡地開発にどのような関わりがあったのでしょうか？ 普天間飛行場返還後の跡地利用の参考となる「アワセゴルフ場地区」についてご紹介します。

アワセゴルフ場地区の変遷

アワセゴルフ場地区は戦後、米駐留軍のゴルフ場として利用されてきました。当地区は、平成22年に返還され、平成25年から北中城アワセ土地区画整理組合による「アワセ土地区画整理事業」が行われており、令和元年度に完了の予定となっています。

地権者の意向反映

基地返還後の跡地での事業推進にあたっては、地権者の合意形成は欠かせないものとなります。アワセゴルフ場地区では、約7割の地権者の「返還後も土地を貸したい」という意向のもと、大規模な共同利用街区へ大規模商業施設を誘致し、地権者の意向を反映させた跡地利用が実現しています。

次ページに続きます

動く！ 普天間飛行場跡地未来予想図のご紹介

みんなで考え、動き出している跡地利用計画の様子を動画でご覧いただけるサイトです。

 ▶ 「普天間未来予想図」で検索

 ▶ URLを直接入力

<http://www.pref.okinawa.jp/futenma-mirai/>

普天間飛行場の跡地を考える 若手の会と一緒に考えませんか？

「若手の会」発足の経緯

 「普天間飛行場のまちづくりを成功させるためには、若い世代が主体的に考え、行動していくことが重要」との地主会等から要請・期待を受け、宜野湾市の「関係地権者等の意向醸成・活動推進調査業務」の中で平成14年に発足した組織です。

活動の目的

 地権者側の提言組織として、普天間飛行場の跡地利用に対する意見を発信すること、より良いまちづくりを実現する事を活動の目的としています。

主な活動内容

- 平成24年度に策定された普天間飛行場跡地利用における「全体計画の中間取りまとめ」をもとに話し合いをしています。
- 令和元年度は、「普天間飛行場跡地利用計画策定にかかる計画分野別検討」をテーマに検討していきます。

新メンバーを募集しています！！

■ 普天間飛行場の地権者、その家族であれば、どなたでも「若手の会」のメンバーとすることができます。（年齢は問いません。）

■ 毎月第2火曜日の午後7時15分から2時間程度、宜野湾市役所にて定例活動をしています。

土地先行取得事業を実施しています

宜野湾市と沖縄県では、普天間飛行場返還後の跡地において、新たな住みよいまちづくりを進めることを目的に、早い段階から公有地（学校用地、道路）を確保するため、「沖縄県における駐留軍用地跡地の有効かつ適切な利用の推進に関する特別措置法」に基づく土地先行取得事業を実施しています。詳しくは宜野湾市ホームページをご覧ください。

【地権者支援情報誌「ふふふと」発行元】

 宜野湾市役所 基地政策部 まち未来課

 〒901-2710 沖縄県宜野湾市野湾一丁目1番1号

 電話 098-892-4401(直通) FAX 098-892-7022

図：地権者支援情報誌「ふふふと」Vol.50(表画)

字別意見交換会

普天間飛行場跡地利用計画に対する
地権者の皆さまの意見を聞かせてください！

別途郵送にてご案内差し上げておりますが、下記日程で字別意見交換会を開催いたします。

11月
開催！！



昨年度の様子

中央公民館 (2階展示室)	11月25日(月)	午後7時～
大山区公民館	11月29日(金)	午後7時～
宜野湾市役所 多目的会議室	11月30日(土)	午後3時～

3日間とも同じ内容になりますので、ご都合の良い日時・会場にご参加ください。

意見交換会当日は、跡地利用計画の策定に向けた取組み内容について、ご紹介させていただきます。その後、地権者の皆様との意見交換を予定しています。ぜひご参加ください。

字別意見交換会の内容

- 1 普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた取組みについて
- 2 普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた「計画内容の具体化」に関する取組について
- 3 小グループに分かれての意見交換



普天間飛行場の跡地を考える
相手の会話がよりやすくなります！



グループに分かれて、
計画に対する意見交換を行います！

スピーディーな事業推進のヒミツ

本地区は、返還から土地区画整理事業完了までの期間が約9年と他の重用跡地の再開発と比べ、短期間で跡地活用が進められています。

その背景には、返還前より跡地活用についての地権者への意向把握を行ったことや、定期的な勉強会においてまちづくりの方針や土地活用方法などの議論を進めていたことがありま。また、土地区画整理事業にあたっては、準備段階から換地業務の実務に着手し、ほとんどの地権者からの申出による換地を行ったことも早期事業展開の鍵となっていました。

アワセ土地区画整理事業の概要

- 事業手法：土地区画整理事業
- 面積：約47.9ha
- 権利者数：約400人
- 事業期間：平成25年度～令和元年度

前のページの続き

普天間 まちづくり講座

参加無料

普天間飛行場跡地の検討は着々と進んでいます。返還後のまちづくりを進めるにあたっては、地権者の皆さまの参加がとて重要となります。皆さまと一緒に普天間飛行場跡地の未来をつくっていくために、まちづくりについて学べる講座を開催いたします。

『普天間飛行場跡地返還後のまちづくりで大切なこと』

どなたでも
参加できます！

～銘苅新都心自治会における地域コミュニティの形成と取組みを事例として～

米軍基地の跡地利用によって新しく創られたまち。そこは、先祖代々から受け継いだ土地を持つ地主、県内や県外から移り住む人、働きに来る人など、多様な人たちが暮らす場所となります。安心安全に住みよい環境としていくためには何が大切か、新都心の居住者として開発後の地域づくりに積極的に取り組んでいる銘苅新都心自治会長の前原信達さんを講師にお招きして、参加者の皆さまと一緒に考えていきます。

日時(予定)	場所(予定)	内容(予定)
1/18(土) 14:00～16:00	宜野湾市役所 別館3階 第一会議室	講師(前原信達氏と池田孝之氏による対談) 銘苅新都心自治会の取組みを通して、まちづくりにおける地域コミュニティの大切さ、作り方を学びます。
2/1(土) 14:00～16:00	銘苅新都心地区 集合場所：ゆいレール おちるま駅 徒歩約1分	フィールドワーク(前原信達氏による案内) 地域の歴史・文化・自然について案内していただき、まちづくりにどの様に活用されているのかを学びます。
2/15(土) 14:00～16:00	宜野湾市役所 別館3階 第一会議室	意見交換(ワークショップ形式) 普天間飛行場の跡地利用を進めるにあたって重要なことは何かを意見交換してまとめます。

●3回連続講座です。可能な限り全ての回へのご参加をお願いいたします。●開催場所：講座内容等については変更が生じる可能性もあります。あらかじめご了承ください。●開催が近づきましたら市ホームページにてご案内いたしますので、日時や会場等をご確認いただきますようお願いいたします。

お問い合わせ 宜野湾市役所 まち未来課 電話：098-893-4401(直通)
申し込み窓口 基地政策部 担当：東江、高良 メール：kichi01@city.ginowan.okinawa.jp

アワセゴルフ場地区関係者との意見交換会

平成27年度に開催した、まちづくりの進め方と地権者の関わり方等をテーマにアワセゴルフ場地区関係者の方々と意見交換会を行った際の内容について紹介します。

Q 地主の意向にもとづいたまちづくりに大事なことは？

- 地権者自身がどう土地を活用するかを考えないとうまくいかない。
- アワセゴルフ場地区のまちづくりは、はじめからオーダーメイド型であり、勉強会等で地権者と情報を共有しながら進めてきた。

Q 大規模商業施設を誘致した決め手は？

- 企業側の提案が土地利用計画の内容と合致したためである。



意見交換会の様子

図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.50(中面)

字別意見交換会で挙げた主な意見と回答

跡地利用全般 に関する意見

- 普天間において、何を整備すれば良いまち、収益のあるまちになるのか。どのようなプロセスで跡地利用計画の実現を図ることになるのか。

→計画については地権者、市民から様々な意見を伺いながら、跡地利用計画を策定していく。

- 普天間飛行場跡地が放映されたプロモーションビデオのようにならなるといいと思う。

- 地権者としては、自身の考えや意見を明確にして、後で「こんなはずではなかった」とならないよう、十分に配慮する必要がある。



産業振興 に関する意見

- 世界中の人が訪れ働ける場所という考えも良いが、市民の働ける場所も欲しい。
- 振興拠点ゾーンに誘致する国内外の企業や団体等は、宜野湾市や沖縄県の若者の雇用の場の創出にもなる。

宜野湾市軍用地地主会 又吉会長

普天間飛行場跡地のまちづくりにあたり、地権者の皆さまのご意見が重要となります。今後も継続的に意見交換が行える場づくりを行ってまいりますので、ご家族と共に積極的にご参加くださいますようお願いいたします。

緑の中のまちづくりに関する意見

- 緑のネットワークとは具体的にどのようなイメージなのか。
- 緑で公園、住宅、都市拠点ゾーン等を結びたいイメージである。
- 緑の中を歩きながら目的地に行くことができ、緑の中を歩行者ネットワークを考えたい。

交通 に関する意見

- 沖縄に咲く花木の並木道があると魅力的な道路になるのではないか。
- 並松街道は、歩行者専用道路として歩いてみたい。
- 単に駅を設置するだけでは通過駅となり、人が訪れない。そうならないよう、宜野湾が起点となる施設が必要だと考える。

地域資源 に関する意見

- 地下洞穴の活用として、泡盛古酒の貯蔵や、観光資源としての活用が考えられる。
- 地下洞穴を観光資源として活用する場合は、洞穴と人々との関わりについても説明した方がいい。



現在の跡地利用に向けた取り組みを次世代につないでいくことが重要

地権者支援情報誌「ふるさと」では、普天間飛行場跡地利用に係る最新情報をお伝えします。

字別意見交換会を開催いたしました

宜野湾市と宜野湾市軍用地等地主会は、米軍普天間飛行場の地権者の皆さまを対象とした「字別意見交換会」を実施しました。開催概要は下記のとおりです。なお、意見交換で挙げた主な意見及び回答は裏面ににてご紹介いたします。

普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた取り組みについて「普天間未来予想図」のプロモーションビデオを放映しました!!

沖縄県と宜野湾市は、普天間飛行場の跡地利用計画の策定に向けた検討を進めております。

意見交換会では、普天間飛行場の跡地利用計画について、地権者の皆さまがイメージしやすいようヴァーチャルリアリティ技術を活用し制作したプロモーションビデオ、「普天間未来予想図」を観ていただきました。

下記のQRコードやURLからもご覧いただけます!!



▶ QRコード
でアクセス

▶ 「普天間未来予想図」で検索

▶ URL を直接入力
<http://www.pref.okinawa.jp/futenma-mira/>



『計画内容の具体化』について若手の会がわかりやすく説明しました!!

現在、普天間飛行場跡地利用計画の策定に向けて、「計画内容の具体化」に関する分野別の検討を進め、案案策定に向けて取り組んでいます。

「普天間飛行場の跡地を考える若手の会（以下、若手の会）」では、跡地利用に関する検討内容について理解を深めていきます。地権者の皆さまにも内容をより良く知っていただくため、若手の会より説明を行います。

今年度の検討内容については中面に掲載しておりますので、ご覧ください。



開催概要

11月25日(月) 宜野湾市立中央公民館、
29日(金) 久米山公民館、30日(土) 宜野湾市役所

【地権者支援情報誌「ふるさと」発行元】

宜野湾市役所 基地政策部 まち未来課
〒901-2710 沖縄県宜野湾市野嵩一丁目1番1号
電話 098-893-4401(直通) FAX 098-892-7022

図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.51(表面)

新メンバーを募集しています！！

- ・普天間飛行場の地権者、その家族であれば、どなたでも「若手の会」のメンバーとなることができます。
- ・本会に興味・関心のある方は、宜野湾市まち未来課までご連絡下さい。

《令和元年度の活動概要》

定例会、自主会、字別意見交換会、視察の開催

- ・「環境づくりの方針」をテーマに勉強、視察、検討したほか、将来的な組織のあり方について検討しています。

若手の会とは？

- ・普天間飛行場跡地利用に向けた地主側の組織として、普天間飛行場返還後のまちづくりをけん引する人材の育成と若い世代の意向把握を目的として平成14年に発足しました。
- ・跡地利用について地権者の立場で検討し、意見を発信する場として活動しています。

令和元年度の活動の背景

返還後のまちづくりを円滑に進めるためには、早い段階からの **地権者の意見が重要！！**

とは言い、跡地利用計画に対する地権者の意見は少ない…。

跡地利用に対して多くの地権者が意見を発信しているよう、**地権者の意見を引き出すための呼び水として、若手の会の考えを発信しよう！**

そのために… ●跡地利用計画の具体化内容（環境づくりの方針）について知識取得 ●先進地視察 ●先進地視察 ●字別意見交換会で地権者との意見交換 ●定例会等での意見交換 等

令和元年度版

「環境づくりの方針」に関する若手の会の考え

緑の中のまちづくり（考え方）			大規模公園の考え方		地域特性	
【緑の中のまち】			【テーマ】		【地下空洞】	
・みどりがまち全体を包み込み、日常的に緑豊かな環境で生活できるまち			・メインテーマを「平和」とする		・上部を緑地とすることにより保全	
・敷地の一定割合を緑化			【規模】		【湧水】	
・公園等の配置により、ゆとりある空間が形成され、人と自然が触れあうようなまち			・大規模公園の魅力や価値に配慮し、中核は90ha程度確保し、飛行場内の緑や周辺の緑地帯を有効活用して100ha以上を確保		・湧水が枯渇しないよう、雨水を浸透させる工夫を施す	
【ネットワーク型の緑】			【施設・設備】		【「宜野湾」の歴史】	
・様々な場所を幅広の緑地帯でつなぐ			・人工的な貯水池を整備。人工池には水上ステージ等を配置し、観光資源として活用		・旧道をそのまま残し遊歩道として活用	
・木陰の中を徒歩で移動できる			・重要な遺跡は1箇所にとどめ、残った方が断片的にも良い等		・基地内周回道路をサイクリングロードとして残す	
【住民意識】			【安全への配慮】		・返還前の段階から、基地内の汚染実態を把握、対策、除去など地主として今主張すべき等	
・緑の質の維持・向上に向けて住民の意識を高める 等						

普天間飛行場跡地 まちづくり講座

『普天間飛行場跡地返還後のまちづくりで大切なこと』

都心自治会における地域コミュニティの形成と取組みを事例として

地権者も市民も一緒にやって普天間飛行場跡地のまちづくりに取り組めるよう、昨年度に引き続き、まちづくりについて学べる講座を開催しました。

第1回 令和2年1月18日（土）開催

地域コミュニティのつくりかた

講師 前原 信達 様 銘苅新都心自治会 会長



地域の宝をどう発見できるかが重要
目に見えない部分（コミュニティ等）をどのようにつくり、いくつもの視点が必要

第2回 令和2年2月1日（土）開催

銘苅新都心のまちづくり

講師 池田 孝之 様 銘苅新都心自治会 会長



新都心の公園は環境や使われ方が多様
そして、地域でうまく活用している！
新しいまちづくりの中でも、地域の歴史・文化を継承している！

第3回 令和2年2月15日（土）開催

普天間飛行場返還後のまちづくりで大切なこと

講師 総括 様 銘苅新都心自治会 会長



公園はイベントや遊歩道の場など
利用目的に応じて整備が大切だと思おう！
歴史文化資源の保全・活用は歴史や環境を
今がに継承し、後世に伝える大切なことだと思おう！

いい地域とは？誰がどのように？

→ 地域を深く知り、地域を使いこなせるようになると、アイデアが生まれ、人と人が繋がる。そうすると、自助力と共助力が高まる。そうして、自治の力が高まった地域はいい地域と言える。

→ いい地域のマッチング、活動場所の提供等、行政の支援も重要となる。



延びていくためには？
→ 若い世代や子どもたちに地域のことを伝え続け、地域を使いこなす人を多く増やしていくことが重要である。

3) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●跡地利用に関する情報発信について

- ・地主会未加入者に対しても「ふるさと」を発行し、全ての地権者に対して跡地利用に関する他地区の事例や行政・若手の会の取組みについての情報を発信する事ができた。

【今後の課題】

●掲載内容に対する地権者の意見

- ・よりよい情報誌とするため、地権者との対話の場において「ふるさと」の内容について意見を伺う等、紙面構成及び内容について地権者へ問いかけ、内容の更なるブラッシュアップを行う必要がある。